

## 第4章 ごみ・資源物量

## 1 収集の状況とリサイクル率

(1) 収集量・持込量の年度別実績(表4-1)

単位 [t]

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
収集人口[人](10月1日現在)		563,895	562,940	562,781	563,327	563,538
収 集 量	可燃ごみ	82,283	83,236	84,823	85,216	83,592
	不燃ごみ	6,405	5,836	5,433	5,190	5,040
	粗大ごみ	2,140	2,215	2,261	2,373	2,120
	有害ごみ	194	213	345	372	337
	資源物	33,030	32,553	32,556	31,608	31,136
	不法投棄ごみ	28	31	23	24	16
	側溝清掃汚泥	146	164	106	108	104
	計	124,226	124,248	125,547	124,891	122,345
持 込 量	事業系可燃ごみ	33,355	33,226	29,574	27,725	26,427
	家庭系可燃ごみ	2,769	3,225	2,489	2,359	2,061
	家庭系不燃ごみ	1,572	1,437	967	883	865
	拠点資源物	1,168	1,178	1,126	546	482
	計	38,864	39,066	34,156	31,513	29,835
合 計		163,090	163,314	159,703	156,404	152,180
資源集団回収量		8,552	8,267	8,226	7,901	7,615
総ごみ量		171,642	171,581	167,929	164,305	159,795

単位 [g/(人・日)]

原 単 位 ( 収 集 量 ま た は 持 込 量 / 3 6 5 日 ま た は 3 6 6 日 )	収 集 量	可燃ごみ	400	405	412	414	406
		不燃ごみ	31	28	26	25	25
		粗大ごみ	10	11	11	12	10
		有害ごみ	1	1	2	2	2
		資源物	161	159	158	154	151
		不法投棄・側溝汚泥	1	1	1	1	1
		計	604	605	610	608	595
	持 込 量	事業系可燃ごみ	162	162	143	135	129
		家庭系可燃ごみ	13	15	12	11	10
		家庭系不燃ごみ	8	7	5	4	4
		拠点資源物	6	6	5	3	2
		計	189	190	165	153	145
	合 計		793	795	775	761	740
	資源集団回収量		41	40	40	38	37
総ごみ量		834	835	815	799	777	

収集人口には外国人登録者数を含む。

平成25年10月以降の有害ごみにはライター・スプレー缶を含む。

平成25年度から平成27年度の拠点資源物には、本庁及び学校の紙資源を含む。

(2) 資源物の戸別回収状況(表4-2)

単位 [t]

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
古 紙	新 聞	2,363	2,204	2,029	1,829	1,674
	ダ ン ボ ー ル	3,972	4,020	4,097	4,122	4,132
	雑 誌 ・ 雑 紙	10,303	10,167	10,092	9,520	9,147
	紙 パ ッ ク	134	132	118	118	118
	計	16,772	16,523	16,336	15,589	15,071
空 き び ん (サ)		4,486	4,433	4,453	4,330	4,238
空 き 缶		1,576	1,511	1,495	1,452	1,413
古 着 ・ 古 布		2,347	2,343	2,439	2,380	2,412
容器包装プラスチック		5,815	5,793	5,854	5,853	5,967
ペ ッ ト ボ ト ル		2,034	1,950	1,979	2,004	2,035
合 計		33,030	32,553	32,556	31,608	31,136

(3) 資源物の拠点回収状況(表4-3)

単位 [t]

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
新 聞	62	56	37	24	22
ダ ン ボ ー ル	254	264	256	179	151
雑 誌 ・ 雑 紙	793	853	828	339	306
紙 パ ッ ク	1	1	1	1	(0.5未満)
は が き (シ)	4	4	4	3	3
ペ ッ ト ボ ト ル	54				
上 履 き ・ 靴				(0.5未満)	(0.5未満)
合 計	1,168	1,178	1,126	546	482

雑誌・雑紙にはシュレッダー紙を含む。

平成25年度から平成27年度には、本庁及び学校の紙資源を含む。

(4) 資源集団回収状況(表4-4)

単位 [t]

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
新 聞	4,012	3,774	3,607	3,260	3,011
ダ ン ボ ー ル	1,319	1,293	1,360	1,393	1,382
雑 誌 ・ 雑 紙	2,576	2,525	2,559	2,531	2,501
紙 パ ッ ク	79	77	80	81	81
生 き び ん	10	6	5	6	6
雑 び ん	24	55	53	59	60
ス チ ー ル 缶	38	36	38	39	40
ア ル ミ 缶	159	165	169	169	167
古 着 ・ 古 布	326	330	346	355	358
金 属 く ず	9	6	9	8	9
計	8,552	8,267	8,226	7,901	7,615
補 助 金 額 [円]	65,062,707	63,796,718	63,577,360	61,473,707	59,450,569
団 体 数 [団体]	389	392	390	388	388

第4章 ごみ・資源物量

(5) 資源化量の年度別実績(表4-5)

単位 [kg]

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
収 集	新聞	2,363,190	2,203,890	2,028,930	1,828,650	1,674,090
	ダンボール	3,971,890	4,019,610	4,096,560	4,122,410	4,132,320
	雑誌・雑紙	10,302,720	10,167,310	10,092,470	9,519,650	9,146,730
	紙パック	133,570	131,860	118,180	117,620	117,600
	空きびん	4,370,930	4,337,940	4,360,670	4,171,320	4,040,110
	スチール缶	912,320	861,540	813,600	759,315	700,070
	アルミ缶	554,175	538,495	578,155	590,685	612,170
	古着・古布	2,346,780	2,343,130	2,438,990	2,379,650	2,412,000
	容器包装プラスチック	5,052,600	5,002,790	5,029,140	5,005,380	5,037,760
	ペットボトル	1,624,550	1,550,950	1,590,310	1,636,240	1,612,100
	容ブラ・ペットボトル残渣	0	0	0	0	29,220
計	31,632,725	31,157,515	31,147,005	30,130,920	29,514,170	
持 込	拠点資源物					
	ペットボトル	(42,007)	-	-	-	-
	古紙	1,114,600	1,177,900	1,126,130	546,550	482,320
	はがき	(3,650)	(3,760)	(3,860)	(3,320)	(3,160)
	上履き・靴	-	-	-	100	100
計	1,114,600	1,177,900	1,126,130	546,650	482,420	
中 間	戸吹清掃工場					
	鉄	486,950	415,220	435,100	414,920	330,940
	焼却灰	7,916,950	8,330,240	7,673,840	7,327,320	6,875,630
	小 計	8,403,900	8,745,460	8,108,940	7,742,240	7,206,570
	北野清掃工場					
	鉄	51,160	53,000	61,380	52,260	56,940
	焼却灰	2,610,430	2,701,620	2,760,000	2,597,330	2,659,300
	小 計	2,661,590	2,754,620	2,821,380	2,649,590	2,716,240
	戸吹不燃物 処理センター					
	鉄	1,749,250	1,732,910	1,295,850	1,154,240	1,012,610
	非鉄金属	131,340	143,890	266,950	292,460	268,620
	自転車	149,080	152,850	156,660	143,090	145,130
	小型家電	450,150	497,150	658,350	727,570	743,120
	2次乾電池	-	1,130	1,170	-	-
	スプレー缶等	12,840	37,020	105,150	129,950	132,320
	雑線	-	-	31,540	15,240	47,990
	ガラス陶磁器	-	-	98,190	179,850	150,930
	傘等	-	-	-	77,010	74,420
	フロン回収品	-	-	-	5,330	7,160
	不燃残渣	-	-	-	-	5,300
	その他	-	-	42,000	44,290	36,750
	小 計	2,492,660	2,564,950	2,655,860	2,769,030	2,624,350
	粗大再生品	7,402	117,696	113,805	82,852	77,148
乾電池・蛍光管	79,716	59,521	80,037	81,500	84,430	
中 計	2,579,778	2,742,167	2,849,702	2,933,382	2,785,928	
プラスチック 資源化センター						
容器包装プラ	(5,052,600)	(5,002,790)	(5,029,140)	(5,005,380)	(5,037,760)	
ペットボトル	(1,624,550)	(1,550,950)	(1,590,310)	(1,636,240)	(1,612,100)	
容ブラ・ペット残渣	(0)	(0)	(0)	(0)	(29,220)	
小 計	(6,677,150)	(6,553,740)	(6,619,450)	(6,641,620)	(6,679,080)	
多摩清掃工場						
鉄	153,920	172,020	149,450	159,070	139,250	
非磁性物	49,510	32,290	25,810	39,320	41,800	
焼却灰	3,197,220	3,117,470	2,785,760	3,070,600	3,100,780	
小 計	3,400,650	3,321,780	2,961,020	3,268,990	3,281,830	
多摩清掃工場 不燃・粗大 処理施設						
鉄	547,590	517,540	443,690	420,140	415,870	
非鉄金属	37,300	43,070	35,570	30,950	32,260	
自転車	9,760	6,910	10,070	7,450	3,930	
基板等	1,000	380	600	520	210	
家具・羽毛布団・CD	-	-	-	820	5,120	
フロン回収品	-	-	2,080	2,710	2,420	
その他	-	-	70	1,340	-	
小 計	595,650	567,900	492,080	463,930	459,810	
乾電池・蛍光管	-	-	33,700	35,220	31,110	
中 計	595,650	567,900	525,780	499,150	490,920	
計	17,641,568	18,131,927	17,266,822	17,093,352	16,481,488	
資源化量	++	50,388,893	50,467,342	49,539,957	47,770,922	46,478,078
資源集団回収量		8,552,020	8,267,121	8,226,110	7,900,590	7,614,913
総資源化量	+	58,940,913	58,734,463	57,766,067	55,671,512	54,092,991

戸吹不燃物処理センター

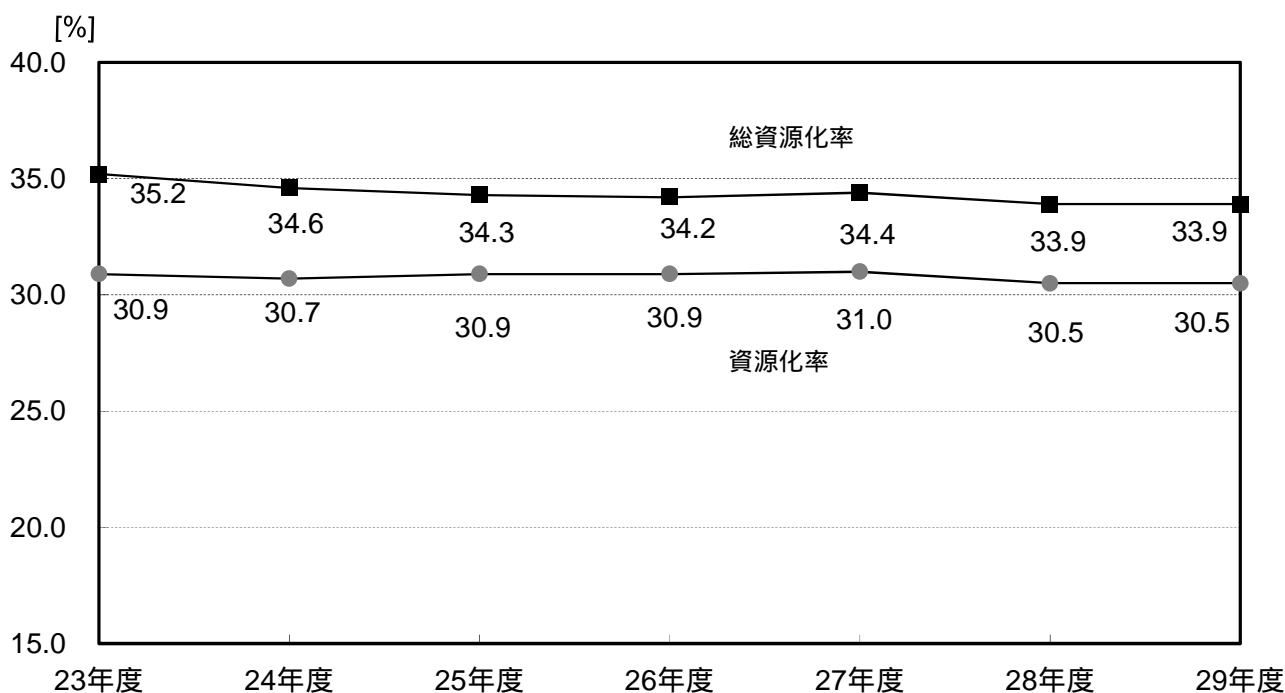
- 鉄…………… 処理困難鉄、処理磁性
- 非鉄金属…………… アルミ等、選別金属
- スプレー缶等…… スプレー缶、ライター、炭酸ガスボンベ
- その他…………… コンクリートブロック、バッテリー、バイクなど、不法投棄ごみ等からの資源物
- 多摩清掃工場不燃・粗大処理施設
- 鉄…………… 鉄類(処理後のスプレー缶分も含む)
- 非鉄金属…………… アルミ類(処理後のスプレー缶分も含む)、銅管
- 基板等…………… 小型家電由来の電子回路基板、携帯電話
- その他…………… バッテリー、消火器など、不法投棄ごみ等からの資源物

(6) 収集量・持込量と資源化量 (表 4-6)

単位 [t]

区 分	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
A 収集ごみ量 + + + + +	91,196	91,695	92,991	93,283	91,209
B 持込ごみ量 + +	37,696	37,888	33,030	30,967	29,353
C 収集・持込資源物回収量 +	34,198	33,731	33,682	32,154	31,618
D 収集・持込資源物源化量 +	32,747	32,335	32,273	30,677	29,996
E 中間処理後の資源化量	17,641	18,132	17,267	17,094	16,482
F 資源集団回収量	8,552	8,267	8,226	7,901	7,615
G ごみ量 A+B+C	163,090	163,314	159,703	156,404	152,180
H 総ごみ量 A+B+C+F	171,642	171,581	167,929	164,305	159,795
I 資源化量 D+E	50,388	50,467	49,540	47,771	46,478
J 総資源化量 D+E+F	58,940	58,734	57,766	55,672	54,093

(7) 総資源化率及び資源化率の推移 (図 4-1)



総資源化率及び資源化率の算出方法

$$\text{総資源化率} [\%] = \frac{\text{総資源化量 J}}{\text{総ごみ量 H}} = \frac{\text{資源物資源化量 D} + \text{中間処理後の資源化量 E} + \text{資源集団回収量 F}}{\text{収集ごみ量 A} + \text{持込ごみ量 B} + \text{資源物回収量 C} + \text{資源集団回収量 F}}$$

$$\text{資源化率} [\%] = \frac{\text{資源化量 I}}{\text{ごみ量 G}} = \frac{\text{資源物資源化量 D} + \text{中間処理後の資源化量 E}}{\text{収集ごみ量 A} + \text{持込ごみ量 B} + \text{資源物回収量 C}}$$

2 各種データ

(1) 収集量・持込量の施設別搬入実績(平成29年度)(表4-7)

単位 [t]

区 分		搬 入 先							計
		焼 却 施 設			不燃・粗大処理施設		資 源 化 施 設		
		戸吹清掃工場	北野清掃工場	多摩清掃工場	戸吹不燃物処理センター	多摩清掃工場	プラスチック資源化センター	資源物選別施設	
収 集	可燃ごみ	36,585	23,434	23,573					83,592
	不燃ごみ				4,260	780			5,040
	粗大ごみ		6		1,596	518			2,120
	有害ごみ				277	60			337
	資源物						8,002	23,134	31,136
	不法投棄ごみ	10			5	1			16
	側溝清掃汚泥	62	38	4					104
持 込	可燃ごみ	25,916	456	2,116					28,488
	不燃ごみ				618	247			865
	拠点資源物							482	482
計		62,573	23,934	25,693	6,756	1,606	8,002	23,616	152,180

(2) 施設別総搬入実績(平成29年度)(表4-8)

単位 [t]

区 分		搬 入 先							計
		焼 却 施 設			不燃・粗大処理施設		資 源 化 施 設		
		戸吹清掃工場	北野清掃工場	多摩清掃工場	戸吹不燃物処理センター	多摩清掃工場	プラスチック資源化センター	資源物選別施設	
収集・持込ごみ		62,573	23,934	25,693	6,756	1,606	8,002	23,616	152,180
選別物		4,392		1,132	63				5,587
その他				97		4			101
計		(ア) 66,965	(イ) 23,934	(ウ) 26,922	(エ) 6,819	(オ) 1,610	(カ) 8,002	(キ) 23,616	157,868

その他は戸吹清掃工場、北野清掃工場、戸吹不燃物処理センターに搬入されたごみのうち、積替輸送され、多摩清掃工場で処理されたごみをいう。

(3) 焼却施設の実績(平成29年度)(表4-9)

単位 [t]

区 分		戸吹清掃工場	北野清掃工場	多摩清掃工場	計
稼働日数 [日]		340	309	313	—
搬入量 (焼却量)		66,965 (64,462)	23,934 (24,233)	26,922 (25,750)	117,821 (114,445)
焼却残灰	エコセメント	6,856	2,659	3,004	(ケ) 12,519
	溶融固化物	20	—	97	117
金属分		331	57	181	569
埋立					
その他		68	31	0	99
搬出量		7,275	2,747	3,282	13,304
うち資源化量		7,207	2,716	3,282	13,205

焼却残灰は全量資源化されている。

その他は戸吹清掃工場、北野清掃工場に搬入されたごみのうち、積替輸送され、戸吹不燃物処理センター、多摩清掃工場で処理されたごみをいう。

(4) 不燃・粗大処理施設の実績(平成29年度)(表4-10)

単位 [t]

区 分		戸吹不燃物 処理センター	多摩清掃工場	計
稼働日数 [日]		209	201	—
搬入量		6,819	1,610	8,429
有価物		2,223	456	2,679
非有価物 (乾電池・蛍光管委託処理)		578 (173)	34 (31)	612 (ケ) (204)
埋立		40	0	(コ) 40
可燃物 (粗大ごみ由来の可燃物)		3,438 (886)	1,050	4,488 (886)
その他		4	0	4
搬出量		6,283	1,540	7,823
うち資源化量		2,787	490	3,277

( ) は内数を表す。

搬入量と搬出量は、蒸発や一時保管等の理由で一致しない場合がある。

その他は戸吹不燃物処理センターに搬入されたごみのうち、積替輸送され、多摩清掃工場で処理されたごみをいう。

資源化量には、搬出した可燃物が焼却処理後に資源化される量含まない。

資源化量に粗大再生品、乾電池・蛍光管の資源化された量を含む。

(5) プラスチック資源化センターの実績(平成29年度)(表4-11)

単位 [t]

区 分		容器包装 プラスチック	ペットボトル	計
稼働日数 [日]		257	257	—
搬入量		5,967	2,035	8,002
再商品化量		5,038	1,612	6,650
可燃物	焼却			1,051
	資源化			29
不燃物				7
搬出量				7,737
うち資源化量				6,679

搬入量と搬出量は、蒸発や一時保管等の理由で一致しない場合がある。  
 可燃物と不燃物は合わせて搬出しているため合計値のみを記載する。  
 可燃物の一部は資源化し、残りは戸吹清掃工場で焼却処理する。  
 不燃物は戸吹不燃物処理センターで選別処理する。  
 資源化量には、戸吹清掃工場と戸吹不燃物処理センターで処理され資源化される量を含まない。



## (6) ニツ塚最終処分場・エコセメント化施設年度別実績(表4-12)

区 分		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
不 燃 残 渣	埋立重量 [t]	313	334	86	60	40
	埋立容量 [m <sup>3</sup> ]	359	354	88	61	40
	搬入配分量 [m <sup>3</sup> ]	269	227	248	268	144
	搬入配分貢献量 [m <sup>3</sup> ]	-90	-127	160	207	104
焼 却 残 渣	埋立重量 [t]	—	—	—	—	—
	埋立容量 [m <sup>3</sup> ]	—	—	—	—	—
	エコセメント化 施設搬入量 [t]	13,724	14,149	13,220	12,945	12,519
	搬入配分量 [t]	10,491	11,104	11,060	11,124	10,658
	搬入配分貢献量 [t]	-3,233	-3,045	-2,160	-1,821	-1,861

平成7年3月から平成10年4月までは谷戸沢処分場へ、それ以降はニツ塚処分場へ搬入している。  
搬入配分量とは東京たま広域資源循環組合が各組織団体に対して年度ごとに設定している廃棄物搬入量の目標値のことをいう。  
搬入配分貢献量とは搬入配分量から搬入実績量を差し引いたものをいう。

## (7) 最終処分場搬入実績累積量(表4-13)

谷戸沢処分場搬入実績累積量 (平成6年度～平成10年度)	68,926 m <sup>3</sup>
ニツ塚処分場搬入実績累積量 (平成9年度～平成29年度)	182,575 m <sup>3</sup>
エコセメント化施設搬入実績累積量 (平成18年度～平成29年度)	135,107 t

### 3 ごみ処理基本計画進捗状況

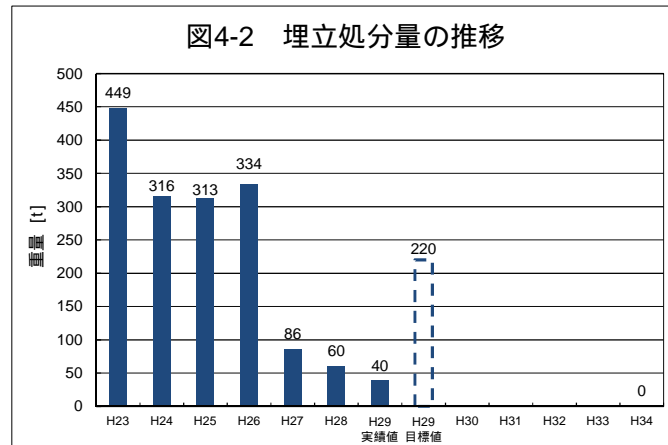
#### (1) ごみ処理基本計画概要

本市では、平成19年3月に策定したごみ処理基本計画の見直しを行い、平成25年3月に新たに「八王子市ごみ処理基本計画『循環型都市八王子プラン』」を策定した。本計画は、10年後の将来を見据えて市民及び事業者と市が自らの行動を継続的に取り組むための具体的な行動計画を示すもので、計画期間を平成25年度～平成34年度までの10年間とし、平成29年度を中間目標年度・平成34年度を目標年度とする。

#### (2) 計画の目標値と平成29年度実績

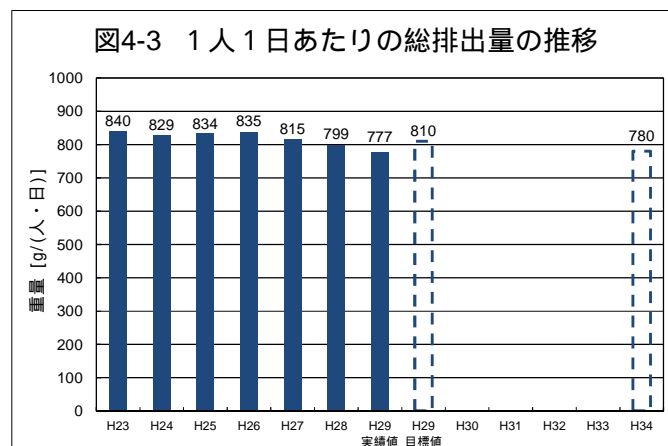
##### ア 埋立処分量

埋立処分量（表4-12参照）を平成29年度までに220t以下、平成34年度までにゼロにすることを目標にしている。平成29年度実績は40tとなったことにより、平成29年度の目標値を達成している。前年度比20tの減となっている主な要因は、選別精度の向上や不燃ごみの減少によるものと考えられる。



##### イ 1人1日あたりの総排出量

1人1日あたりの総排出量（総ごみ量の原単位 表4-1参照）を平成29年度までに810g以下、平成34年度までに780g以下に削減することを目標にしている。平成29年度実績は777gとなったことにより、平成34年度までの目標値を達成している。前年度比22gの減となっている主な要因は、事業系持込ごみや資源物の減少による。

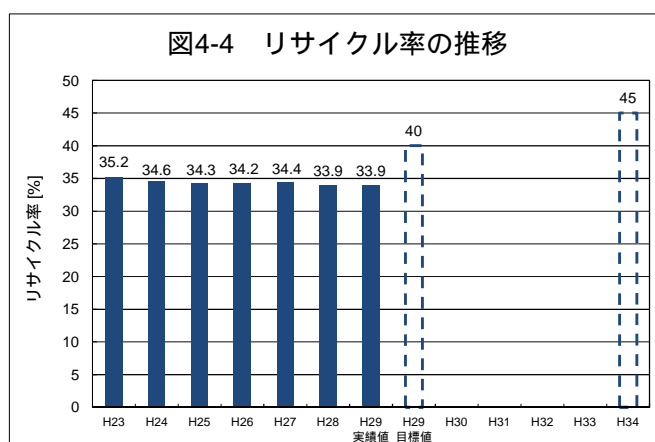


### ウ リサイクル率

リサイクル率(総資源化率 図4-1 参照)を平成29年度までに40%以上、平成34年度までに45%以上に引き上げることを目標にしている。

平成29年度実績は33.9%であり、平成29年度までの目標値とは6.1%の差がある。リサイクル率は重量をもとに算出されるが、近年は、紙面購読から電子端末を利用した購読の切り替えや、容器包装の軽量化等、全国的な動向として資源物そのものが減量したことなどが影響し、リサイクル率は伸び悩んでいる。

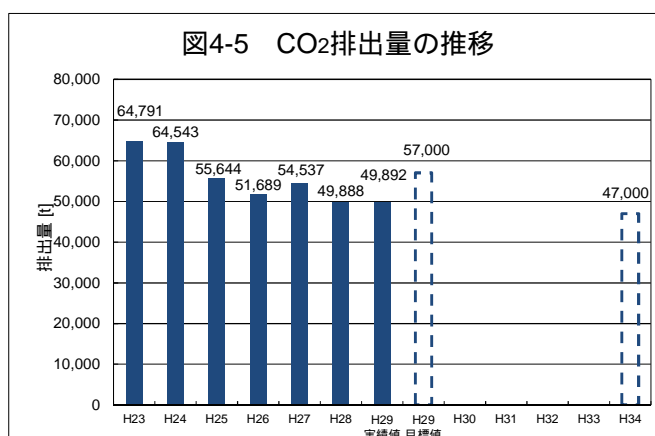
一方、前年度と同等となっている主な要因は、上記のように資源物重量が減少していることに加え、総ごみ量も減少したことによるものと考えられる。



### エ CO<sub>2</sub>排出量(削減率)

CO<sub>2</sub>排出量を平成29年度までに57,000 t以下(削減率:12%)、平成34年度までに47,000 t以下(削減率:27%)に引き下げることが目標としており、平成29年度実績は49,892 tとなった。

平成24年度の戸吹清掃工場の灰溶融炉停止により、電気使用量が大幅に下がるとともに売電量が増えたため、平成29年度の目標値は既に達成している。



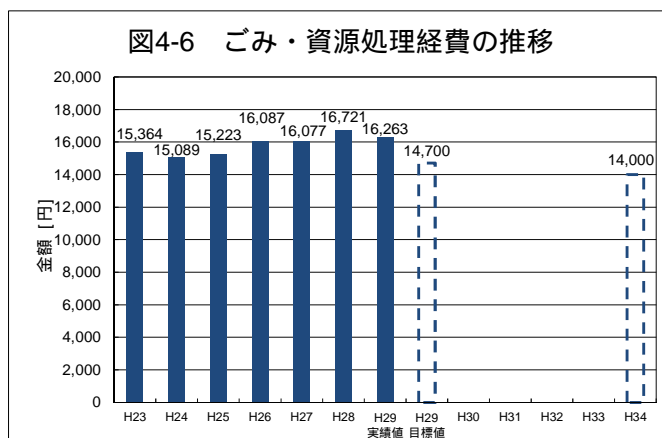
ごみ処理施設からの排出分及び収集車からの排出分を対象とする。  
 収集車については、直営分に加え委託分も対象とする。  
 清掃工場における売電分を差し引いた形で、排出分を算出する。

オ ごみ・資源処理経費

ごみ・資源処理経費（表 3-4 参照）を平成 29 年度までに市民 1 人あたり 14,700 円/年以下、平成 34 年度までに 14,000 円/年以下に引き下げることを目標にしている。

平成 29 年度実績は 16,263 円/年となり、平成 29 年度までの目標値とは 1,563 円の差がある。これは、平成 24 年度の戸吹清掃工場の灰溶融炉停止により、東京たま広域資源循環組合への焼却灰の搬入量が増加し、平成 26 年度からのエコセメント化に係る負担金が増加したことなどが影響している。

一方、前年度比減となっている主な要因は、多摩ニュータウン環境組合の公債費償還に伴う負担金の減少などによる。



#### 4 ごみ有料化後の状況

本市は、平成16年10月から人口30万人以上の都市としては全国で初めてごみ有料化と戸別回収を同時に実施した。これを契機として市民の意識が高まり、ごみ減量への取り組みが行われたことにより、16年度から3年連続リサイクル率第1位、2年連続リデュース第1位（18年度は第2位）（人口50万人以上の都市）という成果を得ることができた。28年度のリサイクル率は3位、リデュースは2位となった（環境省発表）。

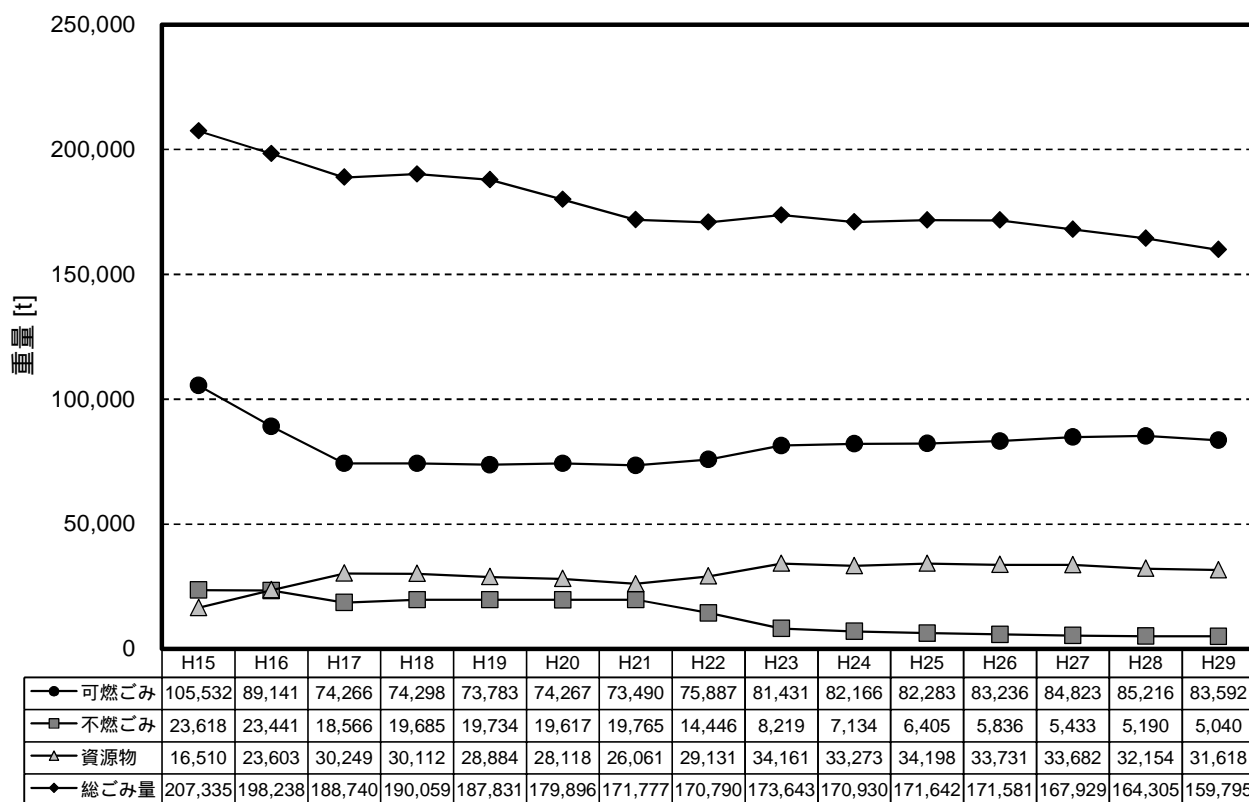
表4-14：人口50万人以上都市のリデュース（1人1日あたりの総排出量）とリサイクル率全国順位の推移【環境省発表】

年 度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
リデュース	1位	1位	2位	3位	3位	2位	3位	2位	2位	2位	2位	1位	2位
リサイクル率	1位	1位	1位	2位	4位	6位	4位	2位	3位	3位	4位	3位	3位

環境省発表のリサイクル率には、エコセメント化によるリサイクル量は含まれていない。

平成29年度は、ごみ有料化導入前の平成15年度と比較すると、可燃ごみの収集量（表4-1）は21,940t、不燃ごみの収集量（表4-1）は18,578t、可燃ごみと不燃ごみ合わせて40,518t、31.4%の減量となった。また、資源物の回収量（表4-1）は15,108t、91.5%増加している。

図4-7：可燃ごみ収集量、不燃ごみ収集量、資源物回収量、総ごみ量



<memo>